

# 光受寺通信

NO.204

R01・1 発行  
発行元 光受寺



昨年の報恩講では準備から後片付けに至るまで、「門徒の皆様の報恩感謝の思い」と「尽力によってお勤めさせていただくことができました。誠にありがとうございました。」

さて、その昔は「人生五十年」と言われていました。蓮如様のお文(4帖の2)にも「**それ人間の寿命をかぞうれば、いまときの定命は五十六歳なり**」とあります。「このことを考えると、まだまだ私も頑張れるのかなと思ったりもするのですが、それは平均寿命の延(のび)をもつて人生を油断させ、緩慢な思いにさせているだけのことなのでしょう。たとえいくら長生きをしたとしても人生の終焉の時は必ずやってくるものです。」

そこで人生で最も大切なことは何かと考える時、五十歳であるつと百歳であるつと「**出会うべきものに会っていく**」人生でなかったならば、それは人間として生きたことにはならないし、空しい人生に終わってしまうのではないかと思うのです。

**「本願力にあいぬれば むなしくあへる ひびきなれ」**

(観仏本願力 遇無空過者 能令速満足 功德大宝海)

親鸞聖人(絵像の讃題)

これは『高僧和讃』のお言葉です。私たちは人生の長短に関わらず、あてにならないものを必死に追い求め、幸せを掴もつと必死に苦勞して生きてきました。しかし、「**まことに死せんときは、かねてたのみおきつる妻や(わい)も財宝(ざいほう)も、わが身(み)にはひとつもあひそふところあるべからず**」と、やはりお文にあるように、結局は自分一人で空しくこの世を去っていくことになってしまつたのです。

**本願力に会うとは、聞法して本願を信じ念仏を申す身となることです。**阿彌陀仏の本願力に導かれ、苦悩に満ちた人生から自らの思いやはからいを超えた本当の自分に目覚めようといふことです。

弥陀の本願に包まれて、「南無阿彌陀仏」で今年も始まる。

年の初めには 家族そろって

正信偈を読みましょ。



## 新年にあたり

総代 K・N

新年あけましておめでとうございます。

皆様には良い年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

総代になつて三年近くになります。お寺のことは何もわからず重責に不安でしたが、皆様に教えていただきながら何とか務めることができ感謝申し上げます。今後この縁を大切にしたいと思っております。

私事ですが、免許証の後期高齢者講習のハガキが届き「後期高齢者」の仲間入りです。無理が利かない身体を畑で動かし収穫に喜び、先日もお常飯の時3歳の孫が経本を手に口ずさんでいる姿にほっこりし、心身共に健康でいられる事にありがたみを感じながら日々を過ごさせていただいています。

去年の漢字一文字は「熊」でした。各地で熊が出没し、人的被害が多記録となり人と自然の境界が揺らぐ一年でした。熊も人間も安全に暮らせる世の中になつて欲しいです。「光受寺通信」にも載っていましたが、年賀状じまい等最近は人間関係が希薄となり、何事にも簡素化され、心の寂しさを深く感じます。

今年も、永代経や報恩講やお寺サロン等を通して多くの方にお寺に足を運んでいただき、門徒同士の交流ができたらと願っています。

本年は、災害が少ない穏やかな一年になりますようお願いしています。

お 磨 き あ り が と う ご ざ い ま し た。

昨年十二月一日(月)に有志の皆さんによつて仏具のお磨きをしていただきました。

毎年ご参加していただいている方も何人か来てくださっていました。が、ほとんどの方が二度はご参加くださった人ばかりでした。

おかげさまで皆様の尊いご奉仕が見事な輝きとなりました。

できることなら、将来は子供たちにも参加してほしいと思いますが、それには休日に行つ必要があることから難しいところがあります。

現在ではお磨きをしなくても済む方法（金メッキ、薬につける）もあるのですが、住職としては、面倒で手間のかかることであっても、こうしてご門徒の皆様がお集まりいただき、門徒同士の交流を深め、尊いご奉仕への思いをお供することが大切なことだと思っております。「今時？」じゃなくて「いまだからこそ」と、思っているのです。



洋式トイレと手すりの設置が決まりました。

本年度の総会において、境内の和式トイレのうちの  
一基を洋式トイレにすること、本堂への登り口（石  
段）に手すりを設置することを承認していただきま  
した。

トイシにつきましては、今までにご門徒の方を始め参拝者の方からも不便さをご指摘いただいております。したし、手すりにおきましても転倒の危惧がありましたのでこの機会に工事を行うことといたしました。

今まで大変ご不便をおかけいたしておりましたが、梅が咲く頃までには設置を完了したいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

尚、お齋をお召しあがりいただくためのテーブルも何年か前に一部椅子席にてあります。ご不便を感じていらつしやった方は、ご遠慮なくご利用いただければと思っております。

また今後、光受寺につきましてお気づきの点などございましたら聞かせ頂ければと思っております。  
よろしくお願ひいたします。

お知らせ

仏法に学ばず。

気づきと感動のある人生を。

○光受寺學習会

二月十七日(土) 午後2時～

「新年の集い」

○おてらサロン

一月十五日(木)

廣專寺にて午後一時半～

一時半頃まで

仏教小唄（こばなし）

光受寺若院

『正信偈』の話  
廣専寺若院

それ秋も去り春も去つて、年月をおく  
る。へ。適はさ口ロロハ。適はさ口ロロハ。  
ゝゝゝ。ただいたづらにあかしくいたづ  
らにいらして老いのがたなりはてぬ  
ぬの身のあるやまいそかなしけだ。

お文  
4帖の4

ひんし  
瀕死の一生

顯證寺坊守 藤かおり

「輝け！お寺の掲示板大賞2025」の受賞作（彼岸寺賞）。

私たちは医療がどんなに進み、便利で豊かな生活になったとしても明日も生きていられるかどうかかわからない今を生きているのです。それはまさに瀕死状態で生きているのと同じであると思えます。

「二日二日感謝し、大事に生きることを忘れないで」の気持ちを込めたのだと言われています。

昨年の6月には「**自分ファーストの貧しさ**」で最高賞の仏教伝道協会賞に選ばれて、ダブル受賞となったのだそうです。簡潔な表現でズバリと核心を突いた言葉は素晴らしいですね。